

★映画「WELL FED」から日本の農林水産業の未来を考える★

～オランダから映画監督ら2人を迎えて、バイオテクノロジーを熱く議論～

遺伝子組み換え（GM）作物の実像に迫った映画「WELL FED」をご存じでしょうか。オランダ人が制作した西欧発のドキュメンタリー映画（2017年）です。GM作物に反対する環境団体も含め、様々な人たちの意見を紹介していますが、途上国バングラデシュの小規模農家が害虫抵抗性の組み換えナス（Btナス）を栽培して農薬使用の少ない農業を実現させている様子を克明にレポートしています。

この映画を製作した監督のカーステン氏と科学ジャーナリストのヘデ氏の2人をオランダから招き、9月16日に上映会とパネルディスカッションを行います。

遺伝子組み換え（GM）作物は1996年に米国で初めて栽培されて以来、日本でも大量のGM作物（主にダイズ、なたね、トウモロコシ、ワタ）を輸入し、食用油の原料や家畜の飼料などに使っていますが、ゲノム編集も含め、GM作物への理解は十分に進んでいないのが実情です。この上映会を通じてゲノム編集とGM作物の意義と課題を考えます。

・・・・・・・・開催概要・・・・・・・・

【テーマ】「映画『WELL FED』から日本の農林水産業の未来を考える」

【日時】2022年9月16日（金）14時～16時半

【場所】キャンパスプラザ京都（京都市下京区東塩小路町939、
電話 075-353-9111、JR「京都駅」ポルタC7から徒歩
約2分）

【主催】「遺伝子組み換え作物に関する映画実行委員会」

【プログラム】司会進行 小島正美（元毎日新聞編集委員）

1 映画「WELL FED」の上映（約50分）

2 パネルディスカッション（進行役：小島正美）

パネリスト：カーステン・ドゥ・フルフト氏（オランダ、映画監督）

：ヘデ・ブルスマー氏（オランダ、科学ジャーナリスト）

：木下政人氏（京都大学大学院農学研究科准教授）

：古山みゆき氏（生活協同組合コープこうべ商品政策推進室・供給企画）

※同時通訳と逐次通訳の2人の通訳があり、英語が苦手な人も理解できます。

【参加費と定員】無料、90人

【懇親会】上映会の終了後、近くの飲食店で懇親会を行います。参加費は1人1000円。どなたでも参加可能です。

【参加・問い合わせ】参加希望者は件名を「京都上映会参加」とし、名前と所属、懇親会の参加の有無を記し、9月10日までに小島（080-4864-6080）のeメール：rendaco-1225@ozzio.jp へお申し込みください。



《パネリストの略歴》

■木下政人(きのした・まさと)氏＝京都大学大学院農学研究科准教授。京都大学大学院(水産学)博士課程修了(1991年京都大学農学博士)。1994年京都大学農学部助手、2021年現職。リージョナルフィッシュ株式会社 CTO 兼務。実験モデル生物であるメダカを用いて魚類の遺伝子機能の解明及び遺伝子発現制御手法の開発を行う。近年、これら基礎技術を養殖魚に応用し、養殖業の発展に取り組む

■古山みゆき(ふるやま・みゆき)＝生活協同組合コープこうべ商品政策推進室・供給企画。1983年灘神戸生活協同組合(現コープこうべ)に入り、商品検査担当として残留農薬、食品添加物など理化学検査を担当。その後、総合品質保証室を担当し、プライベートブランドの仕様確認や自主基準管理、商品事故対応、食品の安全にかかわるリスクコミュニケーションにも取り組む。

■映画「WELL FED」はどんな映画か

映画は、組み換え作物に否定的なイメージを抱くオランダ人のカーステンさん(Karsten de Vreugd)と「組み換え作物の利点」をよく知るオランダ人の科学ジャーナリストのヘデさん(Hidde Boersma)が互いに議論しながら、組み換え作物の真相に迫っていく展開で進む。

カーステンさんは環境団体の「グリーンピース」や生物多様性の保全を重視するオランダの銀行幹部などに意見を聞くが、「大企業依存」「遺伝子の操作」「長期の影響が不明」などネガティブなイメージが強いことを知る。これに対し、ヘデさんは「遺伝子組み換え技術は持続可能な農業を可能にするテクノロジーのひとつだ」と解説する。だが、カーステンさんは納得がいかない。取材の中で貧



写真1 Btナスを栽培する農家(左)。中央はヘデさん、右端はカーステンさん。

しい農家のために開発されたという組み換えナス(害虫抵抗性Btナス)のことを知り、バングラデシュへ飛んだ。組み換えナスを栽培する農家(写真1)は「組み換えナスだと殺虫剤が不要になり、収入が増えた」と明かす。組み換え種子は国の研究所からタダで譲り受けたもので、しかも種子は自家採種できる。カーステンさんは、ようやく組み換え作物の実像の一端を知る。このあと、再びグリーンピースの活動家に会い、激論を交わす。こうした知的な旅の軌跡をカーステンさんはドキュメンタリー映画に仕上げた。

「Well Fed」は直訳すれば、「十分に食事が満たされた」という意味だが、先進国の飽食の裏側に潜む途上国の実態を知ってほしいとの思いが込められている。